

曖昧事例の線引き問題についての授業実践実施報告

岩手県立大船渡東高等学校
電気電子科 阿部貴治

1 はじめに

工業科の目標には、これからの社会を担う工業人としての規範意識や倫理観および安全管理に関する意識を身に付けさせることが明記されている。今回は、そのことを意識した授業を行った。

2 単元設定基準

(1) 生徒観 (電気電子科1年 男子17名 女子1名)

- ・入学してから半年が経過し、お互いの理解が少しずつ進んでいるところである。
- ・授業では積極的に発言したり、生徒どうしで教えあいながら課題を解決する姿勢が見受けられる。

(2) 教材観

- ・日常生活のあらゆる場面で使用している電池について、そのしくみや、充電について考えさせる。

(3) 指導観

- ・曖昧な事例を提示し、複数で考えさせる。似たような見解で一致する場合もあるし、異なる見解に分かれることも予想される。その場合は、なぜいけないことなのかを、お互いに話し合わせることで、事例に対する理解を深めさせる。

3 指導方法

授業目標を確認し、曖昧事例を挙げ、併せて倫理観や規範意識について認識させる。そのうえで、曖昧事例の線引きを個人で行う。その結果を複数で共有し、異なる見解を知り理解を深めさせる。

曖昧事例 テーマ「スマートフォンの充電場所について考えよう」

質問1 みなさんは、スマートフォンまたは携帯電話をどこで充電していますか。また、普段は充電しなくとも、他に考えられる充電できそうな場所を挙げてみましょう。

予想される生徒の回答

- (1) 自宅で
- (2) 自動車で
- (3) 携帯電話ショップで
- (4) ホテルで
- (5) レストランで
- (6) 駅で
- (7) 学校で

質問2 倫理観や規範意識を踏まえて、充電できる場所と充電できない場所に分けてみましょう。

教員が予想したできるできないの境界は(5)と(6)である。理由については、自宅での充電は、購入した電気での充電であること。自宅以外での充電については、公共の場所であり、充電可能スポット(携帯電話販売店、フリースポットなど)でない限り、それは他人から電気を盗むことになること。また、倫理観や規範意識について確認した後の調査であることから、この部分での線引きが大半になるであろうと予想した。

最後に、今日の気づきとして、感想を記入させる。

4 実践結果

質問1に対する生徒の回答

家 車 ホテル トイレ 図書館 学校 駅 レストラン
ショッピングセンター コンビニ リアスホール

ほとんどが教員予想を上回る回答が得られたことから、携帯電話ショップについては提示せず、出された回答で考えてもらうことにした。

質問2に対する生徒の回答

生徒一人ひとりがそれぞれ線引きし、その結果をグループ内で共有（4つの班）した。それからグループで一つに考えをまとめ、各グループの意見として発表してもらった。その結果は以下のとおり。

1班（4名） （充電できる場所 | 充電できない場所）

家 車 ホテル | トイレ 図書館 学校 駅 レストラン
ショッピングセンター コンビニ リアスホール

2班（5名） （充電できる場所 | 充電できない場所）

家 車 ホテル トイレ 図書館 | 学校 駅 レストラン
ショッピングセンター コンビニ リアスホール

3班（4名） （充電できる場所 | 充電できない場所）

家 車 ホテル | トイレ 図書館 学校 駅 レストラン
ショッピングセンター コンビニ リアスホール

4班（5名） （充電できる場所 | 充電できない場所）

家 車 ホテル | トイレ 図書館 学校 駅 レストラン
ショッピングセンター コンビニ リアスホール

線引きした理由

- 1班：家と車は自分のものだから。ホテルはお金を払っているから。
- 2班：自分たちが使ったことがあるから。
- 3班：家、車、ホテルは保護者や自分が契約（お金を払う等）しているから。
- 4班：家、車、ホテルは自分で買ったもの、借りたものなので使ってよい。あとの全てはお金を払っていないから使えない。

今日の気づき

- ・曖昧なところを間違わないようにしっかりとルールを知っていききたい。世の中はお金が大事だなと思った。
- ・充電できる場所とできない場所の違いがよく分かった。
- ・他の班の理由を聞いてそうだなと思った。
- ・他の班の意見は自分たちと違う意見があった。
- ・全員で話し合っただけで考えることができたのでよかった。
- ・充電できる場所と充電できない場所の線引きは、人によって様々であることがわかった。
- ・お金を払っているという視点は、なかなか面白い。
- ・電池の充電できるできないは、お金を払っているかいないかが関係してそう。

5 まとめ

スマートフォンの充電場所で線引きをさせたが、生徒の線引きは予想通りの結果であった。線引き理由については、「自分のものと他人のもの」「契約」等の言葉を使って述べていた。更に授業を終えての感想（今日の気づき）では、曖昧なことについて間違わないようにしたいということや、人によって線引きが異なるといった曖昧問題ならではの気づきを得た生徒もいた。さらに、契約の有無について言及する生徒もいた。

今回の取組を通して、生徒たちの間ではお金を払う等「契約の有無」が充電場所の可否を判断する柱になっていた。契約の有無から「公と私」についての視点を導いていた。これからも機会を見つけては曖昧事例を提示し、さらに生徒の倫理観や規範意識の向上を図りたいと思う。